

南アフリカで40年以上にわたり好調な重大疾病

重大疾病：直近 10 年におけるプライシングとトレンド

重大疾病保険は、およそ 40 年ほど前に南アフリカで発売され、その後世界でも販売されるようになりました。この商品は、以前は病気で亡くなっていた人が、治療の進歩によって長生きし、その病気を抱えて生きていくための経済的な安定を目的として開発されました。この記事では、南アフリカの視点から観察された傾向を考察します。

この数十年間、商品内容を拡大し、異なる重症度やより多くの疾病に対応する必要性が認識されたことにより、この商品は発展してきました。医学的スクリーニングや、診断のための検査や技術の向上も、様々な重大疾病の給付金請求の発生に大きく影響しています。世界では、様々な重大疾病、特に特定のがんが顕著に増加しています。

新型コロナウイルスは、直近2年の給付金請求実績に影響を与えています。入手可能なデータに基づいて、さらに調査を進め、これをプライシングや商品開発、引受に反映させる必要があるということは明らかです。

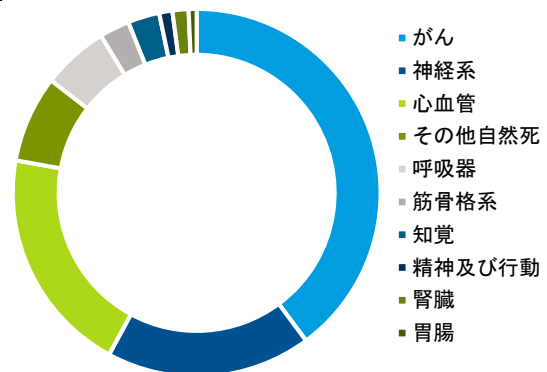
この結果、最大 261 の疾患をカバーし、病状の重症度によって給付金額が決まるハノーバー・リーのスタンダードな総合商品を、南アフリカ向けに開発しました。2012年1月1日から2021年9月30日までの南アフリカの被保険者の経験データに基づいて、対応する重大疾病の計算基礎を導き出しました。これは、直近10年の実績を正確に反映し、将来のトレンドを考慮した最新の計算基礎を決定することが目的でした。また、この調査は13,000件の給付金請求を対象としており、主要な給付金請求のカテゴリーのモデルを作成するには十分でした。

重大疾病の給付実績の一番大きな要因は？

商品が進化し、最大 261 の疾患をカバーできるようになりましたが、主な支払事由は、この商品の発売開始時からカバーされていた疾患に関連しています（がん、心筋梗塞、脳卒中、冠動脈バイパス手術）。

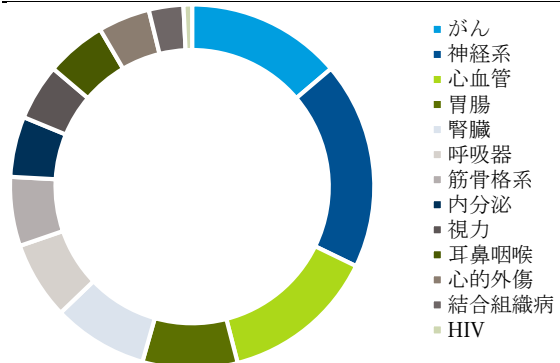
がん、心血管系、神経系のこれら3つが、全ての支払事由のおよそ 76%を占めています。

疾患別の支払保険金



これは、ハノーバー・リーの支払対象としている全疾患に占める割合(48%)と対照的です。つまり、現在支払対象になっている半分以上の疾患が、支払給付金の約 25%にしか相当しないということになります。

疾患別のハノーバー・リーの商品定義



がん

被保険者のうち、がんは、全ての重大疾病給付金の約39%を占めています。その主なタイプは以下のとおりです。

- ・ 大腸、胃、食道を含む胃腸がん。なかでも、大腸がんが80%を占める
- ・ メラノーマとその他皮膚がん
- ・ 血液がん、主に非ホジキンリンパ腫と白血病

「The South African National Cancer Registry¹」によると、最も一般的ながんは以下のとおりです。

- ・ 乳がん
- ・ 胃腸がん
- ・ 前立腺がん

「WHO²」によると、がんは、世界的に主要な死因となっています。最も一般的ながんの種類は(新規に発症したがんで見ると)以下のとおりです。

- ・ 乳がん
- ・ 前立腺がん
- ・ 大腸および直腸がん
- ・ 胃がん
- ・ 皮膚がん
- ・ 肺がん

南アフリカ、世界の人口および被保険者の間では、乳がんと前立腺がんの比率において顕著な違いが認められます。

心血管系

被保険者のうち、心血管系は、全ての重大疾病給付金の約19%を占めています。一番大きな要因は以下のとおりです。

- ・ 心筋梗塞
- ・ 冠動脈バイパス手術
- ・ 不整脈
- ・ 心不全

神経系

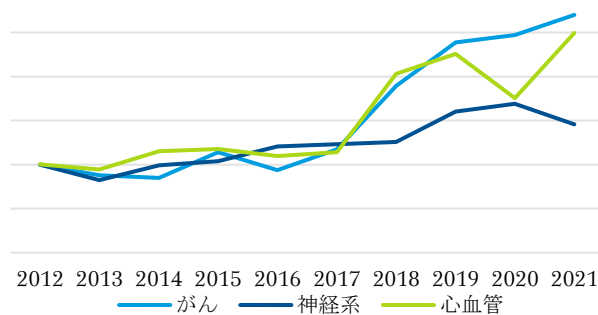
被保険者のうち、神経系は、全ての重大疾病給付金の約18%を占めています。一番大きな要因は、

- ・ 脳卒中
- ・ 変性疾患

トレンド – データと調査の分析

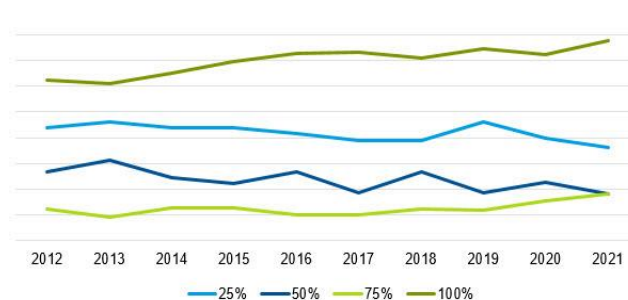
ハノーバー・リーの重大疾病の計算基礎を見直したところ、この調査期間中、給付金請求に上昇傾向があることが認められました。各給付金請求の категорияごとに分析した結果、以下のグラフのように、がん、心血管系、神経系の疾患によって、この傾向が引き起こされていることがわかりました。

年次トレンド



2020年以降、呼吸器疾患についても有意な上昇傾向が認められましたが、この時期の新型コロナウイルスの給付金の誤分類のためだと考えられます。早期診断が保険金の発生に及ぼす影響を理解するために、重症度別に給付金を分析しました。

重症度別の年次トレンド



上のグラフから、上昇傾向は、深刻な病状と関連する、より重症度の高いレベルで給付金が支払われているということがわかります。これは、早期診断やスクリーニングが、重大疾病の上昇傾向の主要な要因ではないことを示しています。

考えられる理由としては、より進歩したスクリーニングによる疾患は、給付金の大きな割合を占めていないことです。(例えば、乳がんは、被保険者のうち、がん給付金の大きな割合を占めていない)

がん

がんは、増加傾向にある重大疾病に最も影響しています(増加したうちの35%が、がんに相当)。胃腸がんは、何年にもわたり、一番高い上昇率と一番高い粗発生率がみられます。また、乳がんと男性の生殖器がん、メラノーマの増加傾向もみられます。

これは、人口調査と一致しています。The South African National Cancer Registry から得られたデータによると、乳がん、前立腺がん、メラノーマ、胃腸がん、血液がん、そして呼吸器系がんが、一般人口で有意な増加がみられます。また、粗発生率からみると、メラノーマ、前立腺がんが一番大きく増加し、40%以上も比率が上昇しています¹。

全世界では、がんの発生率も上昇しています。様々ながんが要因としてあげられ(女性生殖器、男性生殖器、メラノーマ、腎臓、血液がん、呼吸器系)、腎臓がんとメラノーマの増加が一番大きく、粗発生率で20%以上も比率が上昇しています²。

がんの発生率が上昇することの可能性として

- がんの予防のための取り組みの増大。特に乳がんと前立腺がんでのスクリーニングが、公共と民間の両方で優先度が高く設定されている
- メラノーマの場合は、ホクロの発見やモニタリング(マッピングを含む)などの意識の高まった可能性がある

「The South African Journal of Oncology³」は、彼らがモデリングの対象としている全種類のがんの発生件数が増加しており、2019年から2030年の間では、発生件数が現在の倍以上になるという予測まで示されています。そしてここでは、非ホジキンリンパ腫と前立腺がんが主たる要因とされています。

この論文では、がんと年齢には強い相関関係があり、高齢化社会が発症率の上昇を牽引していると、人口統計学と疫学的な理

由が述べられています。さらに、環境的要因と食生活も影響を及ぼしており、この上昇現象は世界においてもみられます。

心血管系

南アフリカでは、心血管疾患に関する収集されたデータは乏しいです。ただし、入手可能な研究結果を踏まえると、心血管疾患全体はわずかな減少傾向にあります⁴。別の研究では、心臓発作、の減少傾向を指摘するものの、それに付随して不整脈と心不全の上昇が現れています⁵。この研究結果は、被保険者の実績で認められるものに、非常に類似しています。

神経系

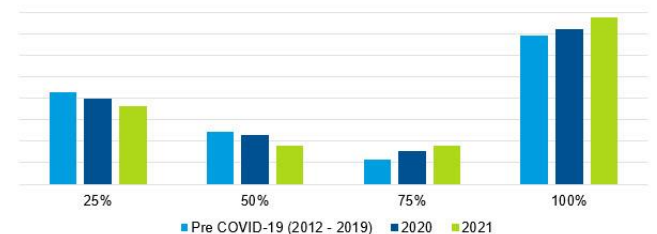
神経系疾患もまた、南アフリカにおいて収集されたデータは乏しいです。入手可能なデータによると、脳卒中の発生率が上昇していますが、これは被保険者の実績と一致しています⁶。

新型コロナウイルスの考慮すべき点

重大疾病の請求実績の分析によると、パンデミックを境に注目に値するいくつかの変化がみられます。それは、2020年の給付金請求が減少したものの、その後一転して増加してきたことです。コロナ禍のロックダウンのレベルによって検査と診断が減少したことを理由に、2020年に発見されなかった疾患が進行とともにより重症度を増したことが可能性としてあげられるかもしれません。

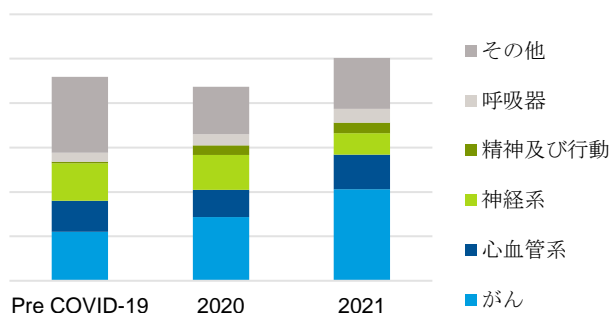
ひとつの例としては、心血管系の発症が2020年に減少し、2021年には増加したこと。また、2021年にはがんの請求もまた顕著に増加しています。(コロナ禍以前から存在した増加をはるかに超える増加傾向がみられる)

期間別の重症度



重症度別の給付金支払の分析から認められるように、より重症度の高い支払給付金の割合が、2021年には有意に、特にがんにおいては増加したことが確認されました。

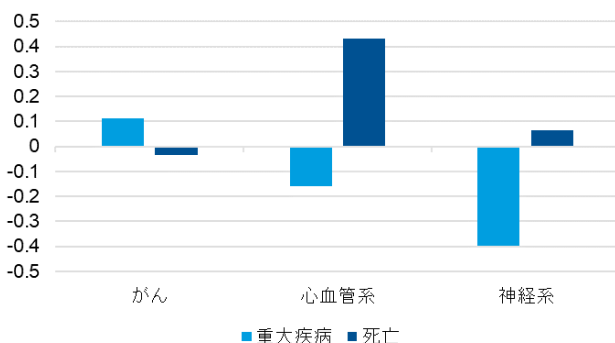
期間別の給付金額



重大疾病保険における請求の内訳の変化は、死亡保険にも影響を及ぼしています。重大疾病保険と死亡保険のコロナ禍前後の請求事由の相対変化を、下のグラフで表示しています。

心血管系疾患の診断の遅れの影響と、それに伴い、その後の重症度の高い請求が増加した結果、心血管系の死亡者数の大幅な増加につながっています。

商品別の給付金の影響



新型コロナウイルスが医療保険に及ぼす長期的な影響に関する研究が多く存在します。その中からいくつかを列挙します。

- 新型コロナウイルスの感染歴のある人は、心不全を発症するリスクが高まっています。研究によると新型コロナウイルス後遺症患者においては、心不全の確率が 72%上がると指摘されています。被保険者においても、上昇を示し、特に 2021 年は顕著に見受けられます。これは、心不全の確率が上がると、研究にて指摘されている新型コロナウイルスのためかもしれません。
- 新型コロナウイルスの後遺症の症状は、脳卒中のリスクが高まることにもつながる可能性もあります。新型コロナに罹

患歴のある人は、中期から長期にわたって脳卒中が起こる可能性が 52%高くなっています⁷。

- また、新型コロナに罹患した人は、呼吸器疾患のリスクも上がっています。研究では、新型コロナの後遺症患者が、呼吸器系疾患を発症する確率が 30%高まることを示しています⁸。

今後のプライシングでは、新型コロナウイルスの直後と長期にわたる両方のインパクトについて考慮する必要があります。

今後の展望

我々の被保険者経験データにおいては、明らかに上昇する傾向が見られているので、将来のトレンドを、重大疾病のプライシングに、正確に反映させなければなりません。

経験データにおいて、新型コロナウイルスの直後と長期の影響には、ばらつきがあることも確認しました。また、一部の主要な支払事由(心臓、脳卒中、呼吸器疾患、精神疾患)においては、新型コロナウイルスの長期の影響があることが研究でも確認されています。

この分野は不確実性が高いため、定期的の実績をモニタリングしながら、重大疾病の計算基礎を継続して調整していきます。また、弊社のメディカルチームと協力し、継続して調査を行っていきます。

重大疾病に関する膨大なデータを入手できますので、定期的にそれらを分析し、トレンドを把握し、プライシング・ベースを調整し、反映させていきます。

作成者



Shevani Rihumal
Head of Pricing
Hannover Re South Africa Limited
Tel. +27 11 481 6785
shevani.rihumal@hannover-re.com

Follow us on [LinkedIn](#) to keep up to date with the latest Life & Health news.



本資料で提供される情報は、法律、会計、税務その他の専門的なアドバイスを提供するものではありません。ハノーバー・リーは、信頼できる、完全かつ最新であると思われる情報を本資料に掲載するよう努めておりますが、当社は、そのような情報の正確性、完全性、更新状況について、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行いません。したがって、いかなる場合においても、ハノーバー・リーおよびその関連会社、取締役、役員、従業員は、本資料の情報に関連してなされた意思決定や行動、あるいは関連する損害について、いかなる責任も負いません。

© Hannover Rück SE. All rights reserved. Hannover Re is the registered service mark of Hannover Rück SE

参考文献

1. National institute for communicable diseases
Source: <https://www.nicd.ac.za/centres/national-cancer-registry/>
2. WHO Global Cancer observatory (UK population)
Source: <https://gco.iarc.fr/>
3. Article: Estimating the burden of cancer in South Africa
Source: https://www.researchgate.net/publication/362629422_Estimating_the_burden_of_cancer_in_South_Africa
4. Article: Trend analysis of cardiovascular disease mortality, incidence, and mortality-to-incidence ratio: results from global burden of disease study 2017
Source: <https://bmcpublihealth.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12889-021-10429-0#:~:text=Over%20the%20last%20decades%2C%20although,w,orldwide%20%5B4%2C%205%5D>
5. Articles: Cardiovascular Diseases in Sub-Saharan Africa Compared to High-Income Countries: An Epidemiological Perspective
Source: Cardiovascular Diseases in Sub-Saharan Africa Compared to High-Income Countries: An Epidemiological Perspective (globalheartjournal.com)
6. Article: Increasing worldwide stroke burden 2010 - 2017
Source: https://www.ahajournals.org/doi/10.1161/str.51.suppl_1.86
7. Heart disease risk Post COVID-19:
Source: https://www.nature.com/articles/d41586-022-00403-0?utm_source=Nature+Briefing&utm_campaign=17bfb6c609-briefing-dy-20220211&utm_medium=email&utm_term=0_c9dfd39373-17bfb6c609-46839734
8. Article: Evidence mapping and review of long-COVID-19 and its underlying pathophysiological mechanism
Source: <https://link.springer.com/article/10.1007/s15010-022-01835-6>